



2020.02.13

今日の流れ

- ・ 自己紹介・法人について
- ・ 情報提供「若者の現場」
- ・ 若者の本音トーク
- ・ まとめ

NPO法人アクションポート横浜 代表理事 高城芳之

学生時代は戸塚区で活動していました！



Twitter @takajo0518
Facebook takajo0518

大学時代から「若者と地域をつなぐ場づくり」をテーマに活動をはじめ、新卒でNPOの世界に飛び込む。現在14年目。37歳、1児の父。

- 2006年 明治学院大学法学部卒業
横浜市市民活動支援センター運営員会スタッフ
- 2009年 アクションポート横浜 事務局長
- 2018年 アクションポート横浜 代表理事



NPO法人 CFFジャパン 理事
世界の「子どもたちの支援」と「青少年育成」の国際NGO



NPO法人くみんネットワークとつか 理事
とつか区民活動センター、ふらっとステーション・とつかの運営



明治学院大学 非常勤講師
社会福祉学科フィールドワークのコーディネート

アクションポート横浜概要



アクションポート横浜は、**若者**と**NPO**をつないで**まちを盛り上げる**NPOです。
まちに愛着を持ち、活動に関わる当事者を増やしていきます。

横浜に笑顔をお届けるをキャッチコピーにサンタが社会貢献
横浜市内の企業が中心に、施設訪問や清掃活動を行う



大学生が地域NPOでインターンシップ（就業体験）
市内10大学と提携し、単位化にて実施。



横浜市旭区、左近山団地に大学生が住み込みで社会貢献
行政、企業、地域NPOの連携事業



情報提供 「若者の現場」

1997年ー2001年生まれの学生



1997年
消費税5%へ引き上げ



携帯
PHS



2000年
シドニーオリンピック



1998年
フランスW杯



1999年 石原都知事誕生



2001年
アメリカ同時多発テロ事件



- スマホで電話も、メールも、SNSも動画も。
- ○○離れの傾向 → お酒、車、新聞、CD など
- 安定志向が高い：就職志望は安定しているところ 56.9%
(給与や能力より上)

日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)
『全国学生1万人 ボランティアに関する意識調査2017』

ボランティアに関する興味の有無



この1年間のボランティア活動の有無



情報、きっかけがない、というのが意識が埋まらない原因。
活動したくない学生：時間がない、交通費が出ない
→ボランティアを労働と捉える意識 = 間違った認識

学生の参加形態

①サークルへの参加



②大学ボラセン



③大学の授業



④インターンシップ



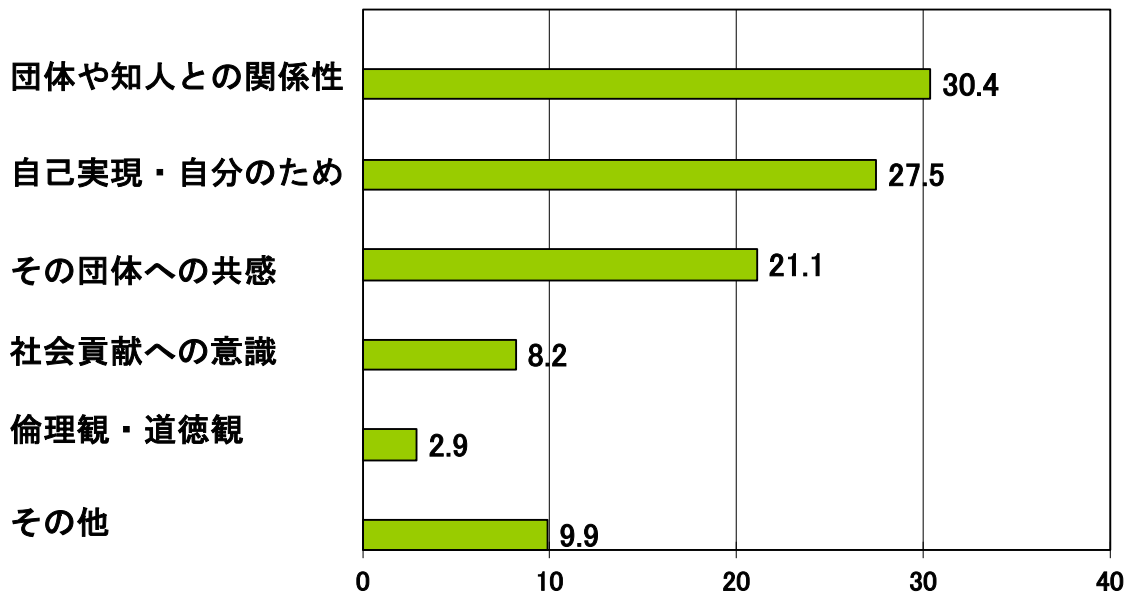


若者本音トーク

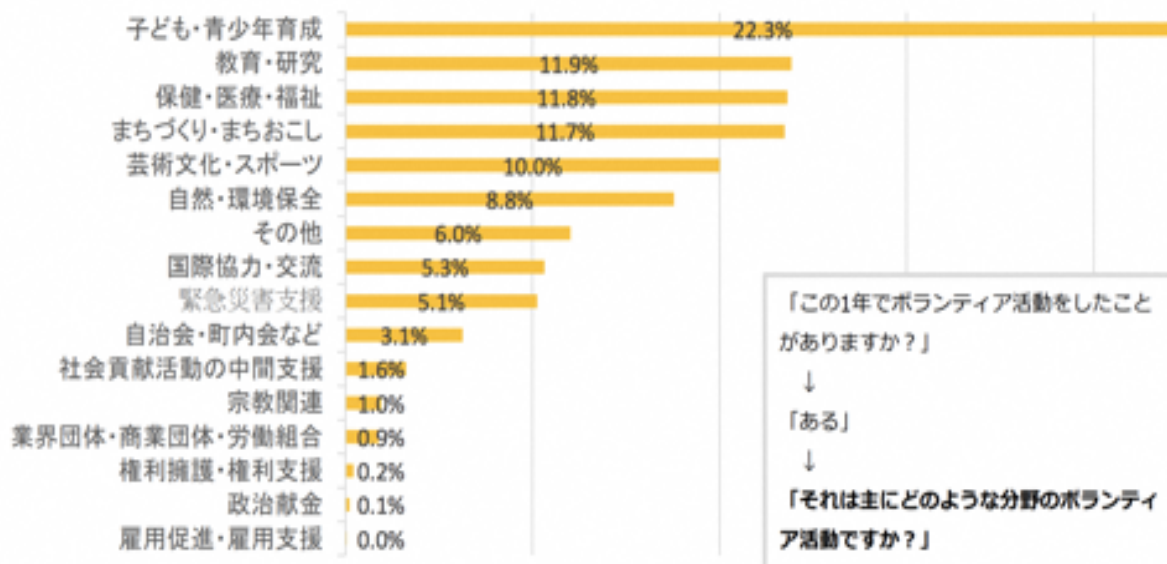


活動のきっかけ

日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)
『全国学生1万人 ボランティアに関する意識調査2017』



日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)
『全国学生1万人 ボランティアに関する意識調査2017』





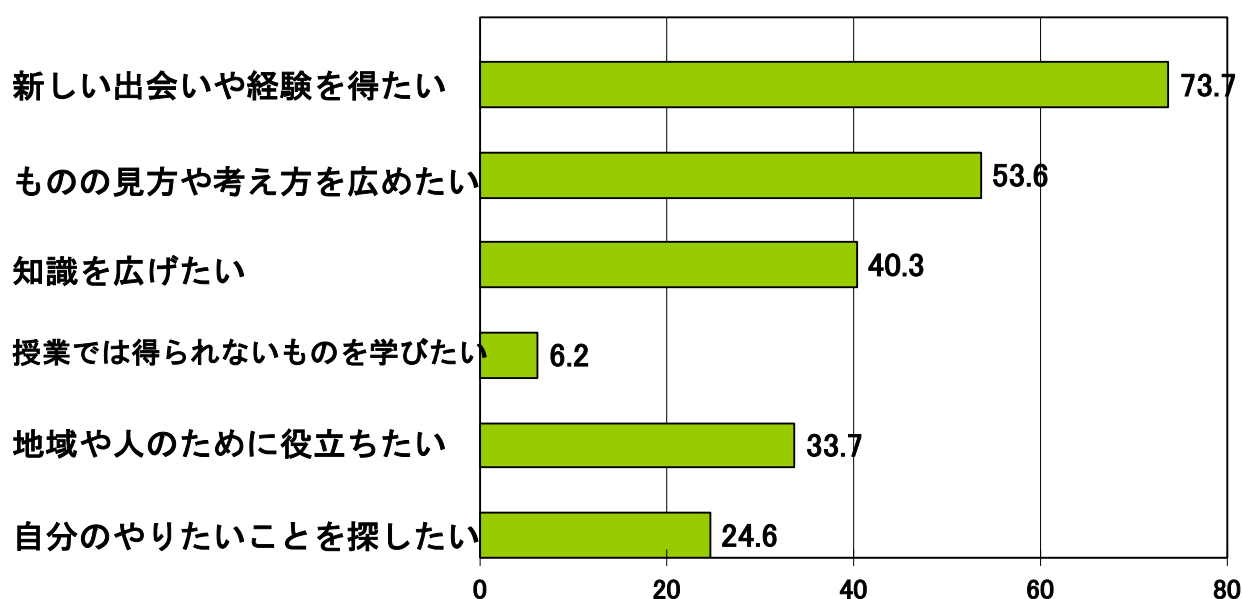
活動の楽しさ (大変さ)

活動に参加したい理由(複数回答あり)



アクションポート
YOKOHAMA

「成長意欲」がポイント！



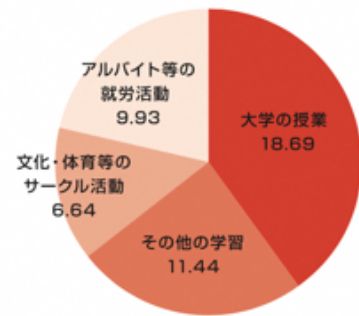
* 出典：明治学院大学ボランティアセンター報告書



忙しい大学生が増えている

大学の授業	出席重視になっている
試験期間	7月下旬-8月上旬、 1月下旬-2月上旬
長期休暇	8月9月、2月3月 * 帰省や留学、合宿などの予定が決まるので早めに告知が必要
1、2年生	授業数が多く、日常的な活動は参加しづらい (平日19時以降、土日は可)
3、4年生	3年冬-4年夏が就職活動、 4年6月に教育実習など

大学生の週間平均生活時間



独立行政法人日本学生支援機構ウェブサイト
(http://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/data06.html#no10)
2010年3月1日参照

大学全入時代→大学に入るのが普通。経済面で苦勞する学生も多い。



こんな活動が参加しやすい (したい)

例えば、若者とシニアだと特徴は異なる

若者		シニア
成長したい チャレンジしたい	動機	貢献したい スキルや経験を活かす
イベントや新しい活動 (新規事業)	得意な活動	ルーティンワークや スキルを生かした活動
夜の方が動きやすい 学生なら長期休みも動 ける	主な活動 時間帯	日中も動きが取れる
スマホ、SNS、学校	情報 獲得先	インターネット、 広報紙、地域施設



まとめ
学生と活動で
連携するポイント

学生が参加したら、子どもたちや30代の若者が増えた！



若者の参加は人や組織をつなげる“接着剤”になる

学生が参加することで新しい企画が生まれた！



若者の参加は活動の“成長促進剤”になる

学生の参加がきっかけで、団体にボランティアが増えた



若者の参加は巻き込み力の“強化剤”になる

コツを紹介

- 「イベント型」「子どもがいる」は参加しやすい
- お手伝いよりコラボレーション（お任せ）のイメージ
- 学生と大人の関係性が築ける時間を作る（自己紹介、ご飯を食べる、名前を覚える）

